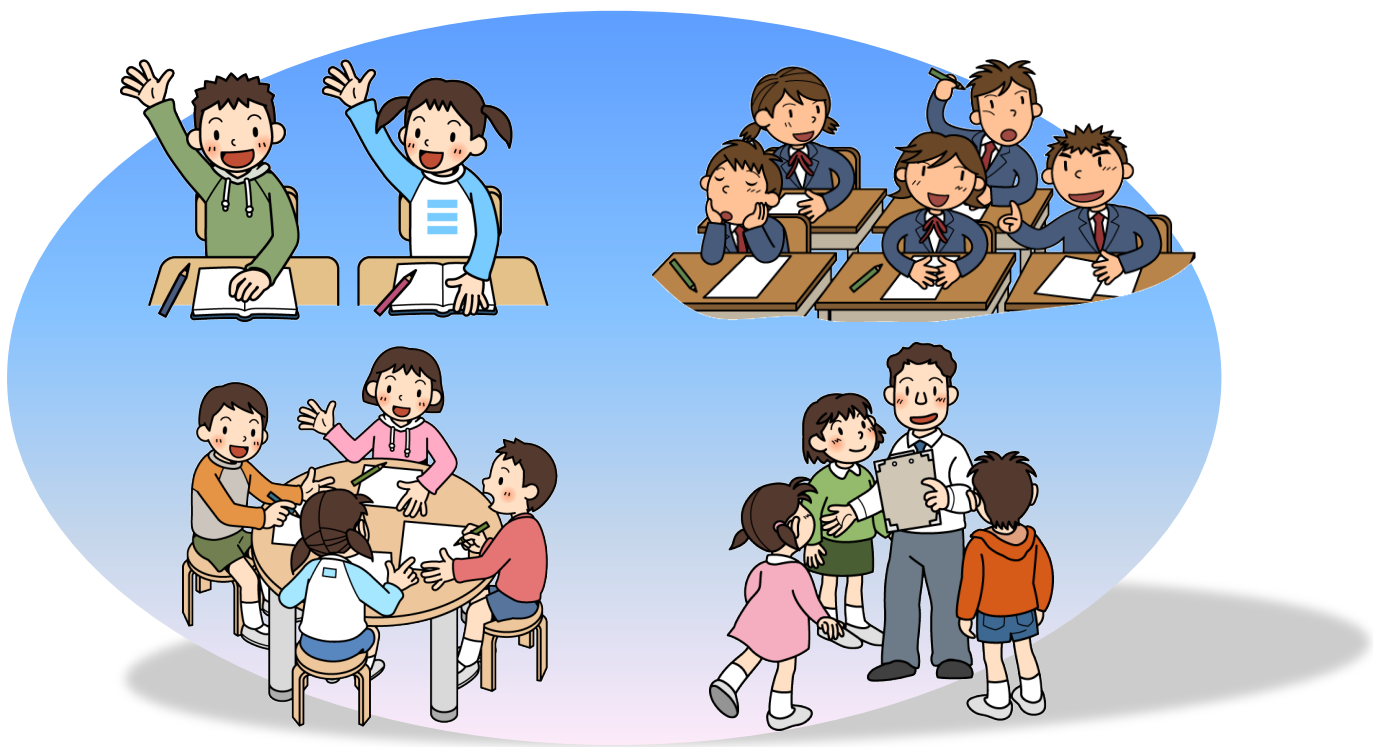


通常の学級における 特別支援教育の充実のために

～「個別的な支援」と「集団への指導」による取組～

小・中学校版



平成26年3月
山口県教育委員会

資料のねらいと構成

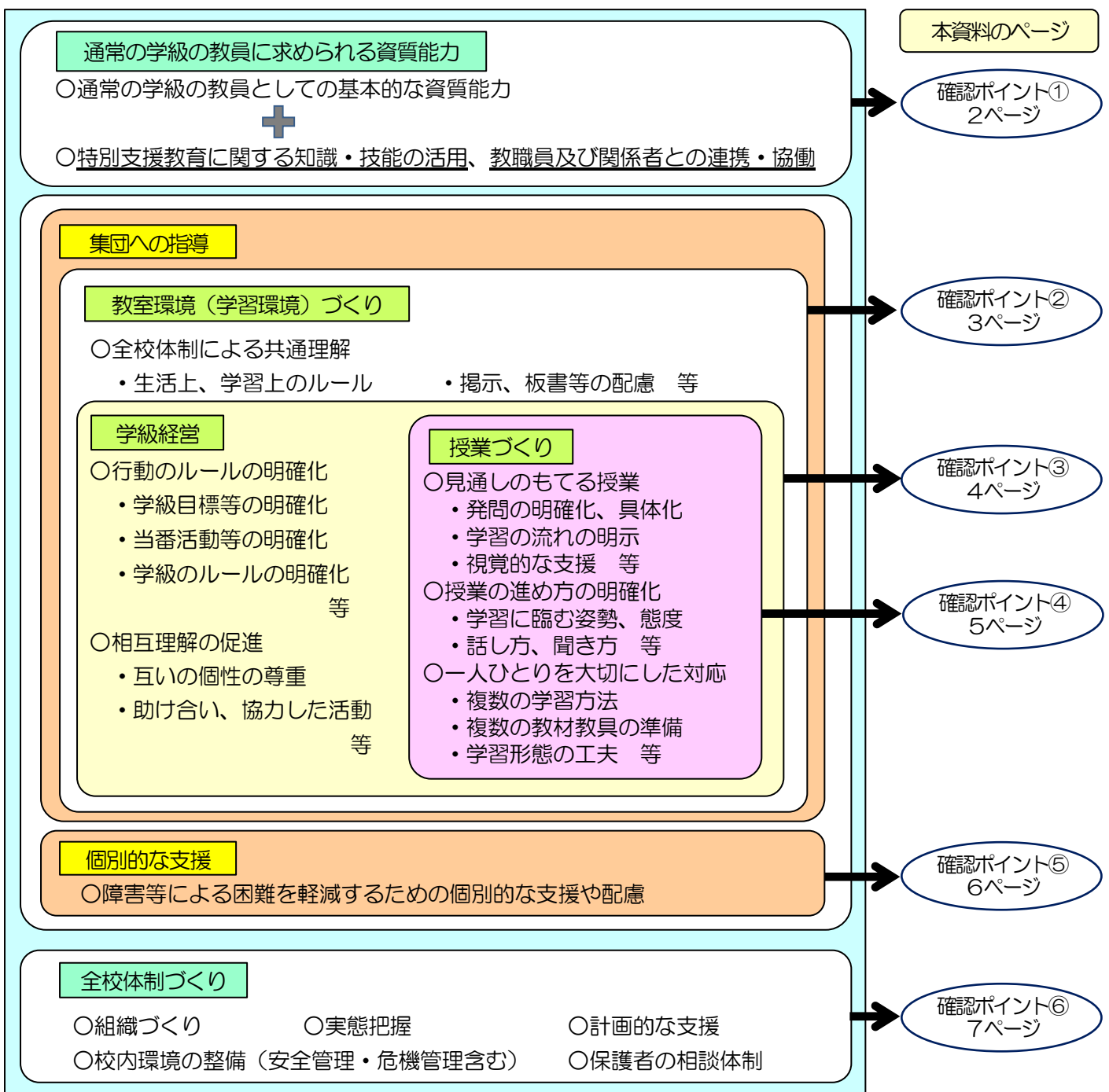
児童生徒一人ひとりを大切にする教育の推進

発達障害等により特別な教育的支援を要する児童生徒をはじめ、全ての児童生徒にとって、教室が安心・安全で、わかる喜びや学ぶ楽しさを味わうことのできる場所であることはとても大切です。

また、発達障害等のある児童生徒は、学校全体で支援することが重要であり、通常の学級の教員には、特別な教育的支援を要する児童生徒を指導・支援するに当たっての基本的な姿勢も求められます。

この資料では、全ての児童生徒に安心できる学校生活や主体的な学びを提供するための工夫、学校が組織として児童生徒や保護者を支援していくためのポイント等を取り上げています。

本資料を活用して、児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成に向けた各学校の取組を、特別支援教育の視点で再確認し、児童生徒一人ひとりを大切にする教育の推進に役立ててください。



確認ポイント① 特別な教育的支援を要する児童生徒への指導・支援の基本的な姿勢

特別な教育的支援を要する児童生徒が在籍する通常の学級の教員に求められる資質能力

発達障害やその傾向のある児童生徒をはじめ、特別な教育的支援を要する児童生徒は、学校全体で育てるという共通認識をもつことが重要です。

管理職のリーダーシップのもとで全教職員が協力し合い、特別な教育的支援を要する児童生徒への指導を、全校体制で組織的、計画的に進めるようにしましょう。

また、障害のある児童生徒を含む多様な教育的ニーズのある児童生徒が在籍している学級の教員には、通常の学級の教員としての基本的な資質能力に加え、自分の授業や指導の幅を広げたり、他の教職員と連携・協働したりするための力などが求められます。

通常の学級の教員に求められる資質能力の考え方

<管理職の資質能力>

○特別支援教育を視野に入れた学校経営と評価

<校内コーディネーター、通級による指導・特別支援学級担当の資質能力>

○協働する仕組みづくり、通常の学級への支援

○関係機関、保護者・家庭との連携

<特別な教育的支援を要する児童生徒が在籍する通常の学級の教員の資質能力>

○自分の授業や指導の幅を拡げることができる

・児童生徒へのまなざし（できない気持ちや、できない要因の理解）

・多様な授業方法・学級経営の方法を知っている、または活用できる

○同僚の教員と協働することができる

・一人で抱え込まない、支援を求めることができる

・校内支援体制等の協働する仕組みを理解し、参画、または活用できる

○保護者の相談に応じ、協働することができる

<通常の学級の教員としての基本的な資質能力>

○授業づくり

○学級経営

○児童生徒理解

○保護者との対応

<土台となるもの>

○児童生徒への愛情

○教育に対する使命感や責任感

○児童生徒を伸ばそうとする意欲や情熱

○豊かな人間性 など

「インクルーシブ教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究」（国立特別支援教育総合研究所）を参考に作成

本資料の活用例



年度始めの校内研修会で、1～2ページを使って、「個別的な支援」の重要性とともに、全校体制を生かした「集団への指導」を充実させていくことを、全教職員で確認しました。

3ページを参考に作成した教室環境チェックリストや、4ページの学級経営チェックリストを使って、新年度に備えました。また、教室環境については、毎月の安全点検の機会を活用して定期的に確認しています。

校内の授業研究のための事前検討会で、5・6ページを参考に具体的な支援や配慮を協議し、学習指導案に明記することで、特別支援教育に係る授業評価が充実しました。

年度始めと年度末に、校長、教頭、学年主任、生徒指導主任、教育相談主任、校内コーディネーターが、7ページの組織支援チェックリストを使って、学校の状況を把握し、改善策を検討しています。

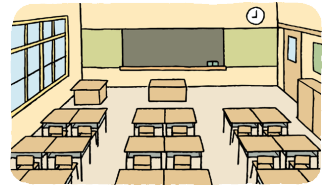


確認ポイント② 落ち着いて過ごせる教室環境（学習環境）づくり

全ての児童生徒が落ち着いて過ごせる教室環境（学習環境）

発達障害やその傾向のある児童生徒は、周囲の小さな変化が気になって注意が続かないことがある一方で、教職員が配慮することで落ち着いて取り組むことができる場合もあります。

全ての児童生徒が安心でき、落ち着いて過ごせるために、不要な刺激を減らしたり、整理整頓に努めたりすることが大切です。ここでは、教室環境（学習環境）チェックリストの例を紹介します。視覚的な支援は状況に応じて変更していきましょう。また、項目によっては学校全体で検討し、共通理解することが大切です。



教室環境（学習環境）チェックリスト（例）

集中しやすいように	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 黒板が見えやすく、板書を書き写しやすい座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 教員からの支援を受けやすい座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 備品や掲示物、外の景色や音などが過度の刺激にならない座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> まぶしすぎたり、暗すぎたりしない座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 前面黒板がきれいに消された状態で授業が始められている。 <input type="checkbox"/> 前面に不要な掲示物がない。 <input type="checkbox"/> 授業の開始時に児童生徒の机の上に必要な物だけが出ている。 <input type="checkbox"/> 授業の終わりごとに机の上に何も置いていない状態になっている。 <input type="checkbox"/> 定期的に机の中を点検させ、整理させている。 <input type="checkbox"/> 廊下のフックやロッカーなど、持ち物が整理しやすいように工夫している。 <input type="checkbox"/> 教員の声は全ての児童生徒に届く、適度な大きさである。 <input type="checkbox"/> 教員の話し方は丁寧に聞き取りやすい。 <input type="checkbox"/> 教員の表現が豊か（音声、表情、身振り、動作等）で、温かい雰囲気である。 <input type="checkbox"/> 机間指導、声かけ等、教員の働きかけが適切である。
トラブルを防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教員の机の上には必要なものしか出ていない状態になっている。 <input type="checkbox"/> 教員用ロッカーが生徒の視野に入る場合、中が見えないようにしている。 <input type="checkbox"/> 教室の棚や掲示物の整理がされている。 <input type="checkbox"/> 朝、教室に入ったとき、机の並びが整っている。 <input type="checkbox"/> 朝、教室に入ったとき、ゴミが落ちていない。 <input type="checkbox"/> 危険な物（図工や技術の道具等）が身近なところにはなく、片付けられている。 <input type="checkbox"/> 壊れやすい物や、はがれかけた掲示物を放置しないようにしている。 <input type="checkbox"/> 人間関係でトラブルになりやすい児童生徒の座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> サポートをしてくれる児童生徒の座席に配慮している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の机と机の間隔が適切である（近すぎない。遠すぎない。）。
見通しをもちやすくする	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1日のスケジュールが簡潔に提示してある。 <input type="checkbox"/> 次の授業や活動の準備物、移動先等の指示が視覚的に提示されている。 <input type="checkbox"/> 給食当番やそうじ当番、日直等の仕事の内容やローテーションが掲示されている。 <input type="checkbox"/> 当番活動の直前に、児童生徒自身に仕事の内容や手順等を確認させている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が何をしようかわからない時間や状況に対して、個別的な支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 初めて体験する行事では、ビデオ等で前年度の様子を示したり、予行練習を行ったりしている。 <input type="checkbox"/> スケジュールの変更等に対して、事前に見通しをもちやすくなるような支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの児童生徒に合った方法で、次の日の連絡が確実に伝わっている。

確認ポイント③ 一人ひとりを大切にする学級経営

一人ひとりを大切に、所属感を高める学級経営

学校生活の基本は学級であり、特別な教育的ニーズのある児童生徒だけでなく、全ての児童生徒にとって、学級が温かく、互いに認め合い、励まし合いながら成長していく集団であることが重要です。

ここでは、発達障害等のある児童生徒を含め、全ての児童生徒が安心して楽しく学ぶとともに、児童生徒が互いの個性を尊重し、協力して、主体的に取り組める学級経営を行う上で重要となるポイントをまとめています。

学級経営チェックリスト（例）

安心できる学級づくり

- 叱責や注意よりも、できるだけ称賛する場面を増やすようにしている。
- 好ましくない行動の代わりとなる適切な行動（どうすればよいか）を、わかりやすく説明している。
- 児童生徒の自尊心を傷つけないよう、叱責や注意の仕方を工夫している。
- 誰もが発言・質問しやすい雰囲気をつくっている。
- 誰もが「困った」「わかりにくい」「教えてほしい」と言える雰囲気をつくっている。
- 多様な意見や考え方が出せる雰囲気をつくっている。
- 児童生徒同士で教え合ったり、助け合ったりする場面を取り入れている。



支え合う学級づくり

- 学級目標を具体的に、わかりやすく掲示している。
- 日々の生活の中で学級目標を踏まえた具体的な「めあて」を設定している。
- 学級のルールを明確にして、文字や絵、写真等を活用するなど、視覚的な支援を行っている。
- 「ルールを守ろうとする姿」を認め、集団の一員であることとルールの大切さを意識させている。
- 「ルールを守らない児童生徒」に対しては、実態に応じて、必ず、最後まで丁寧に指導をしている。
- 「ルールを守らないことを黙認する児童生徒」にも、丁寧に指導をしている。
- 児童生徒の得意なことや好きなことを把握し、学校生活において活躍できる機会をつくっている。
- 児童生徒の努力の過程を認め、励ましている。
- 教員が率先して「ありがとう」の気持ちを表現し、感謝の気持ちを自然に伝え合える雰囲気をつくっている。

特別な教育的支援を要する児童生徒の周りの児童生徒に関して

- 教員自身が、発達障害等のある児童生徒への対応やサポートの仕方のモデルになっている。
- 障害に対するマイナスイメージが強調されないよう、よい点や頑張っている点を示すようにしている。
- 児童生徒間の適切なかわり合いに対して、しっかりと称賛している。
- 児童生徒同士で協力し、助け合うことや、努力を応援する雰囲気をつくるようにしている。

特別な教育的支援を要する児童生徒に関して

- 肯定語を積極的に使い、児童生徒を認め、勇気付け、称賛するよう心がけている。
- 1指示1動作を原則としている。
- 指示は短くはっきりと、落ち着いた口調にしている。
- 好ましくない行動が起こりやすい場面を予測している。
- 好ましくない行動が起こった場面の対応策を事前に考えている。
- 好ましくない行動については、その理由とともに、どうすればよいかをわかりやすく説明している。



確認ポイント④ 「わかる」「できる」を実感できる授業づくり

全ての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業

全ての児童生徒が自分の力を発揮し、認められ、「わかる」「できる」ことを実感できる授業づくりのためには、全ての児童生徒にとって教育の基本となる教科教育の充実に加えて、「障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫」「障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮」などの特別支援教育の視点を取り入れることが重要です。

障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫（例）

観 点		工 夫 の 例
学 習 過 程	準備	<input type="checkbox"/> 授業を始める前に、机上の整理や準備について確認させるようにしている。 <input type="checkbox"/> 教科書、ノート等を準備するタイミングを明示している。 <input type="checkbox"/> 授業の終了後には、次の授業の準備をさせるようにしている。
	導入	<input type="checkbox"/> 前時の内容を「〇×クイズ」、「フラッシュカード」等で復習している。 <input type="checkbox"/> 最初に活動の流れや到達目標等を板書している。
	展開	<input type="checkbox"/> 目標を達成するための課題を、段階を追って理解できるよう活動を細分化（ユニット化）している。 <input type="checkbox"/> 授業の流れを示した図と色磁石で、今何が行われているか、何をするのがわかるようにしている。 <input type="checkbox"/> 補充的な学習や発展的な学習を用意するなど、学習活動に選択の幅をもたせている。 <input type="checkbox"/> ノートを書く際に、「着目する→見る→読む→書く」という流れを意識させ、内容を確認させている。 <input type="checkbox"/> 作業的な活動を取り入れている。（ノートをとらせる、アンダーラインを引かせる、数えさせる等） <input type="checkbox"/> 授業の間に1分間の整理整頓の時間を設定している。（事前に予告する。） <input type="checkbox"/> 時計とタイマーを使って、活動時間や終了時間を明確にし、考える時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 確かめながら話す、理由と一緒に話す、わかりやすく話す等の発表のルールを示し意識させている。
	まとめ	<input type="checkbox"/> 板書のポイントをさし示し、まとめを音読して確認している。
発 問 指 示 評 価	発問	<input type="checkbox"/> ゆっくり、短い言葉で、具体的に話をしている。（抽象的な言葉を減らす。） <input type="checkbox"/> 指示は教員の顔に注目させてから出し、一文一動作、一文一義となるように心がけている。 <input type="checkbox"/> 指示や発問内容が見える形にする等、視覚的イメージを促す表現を使っている。 <input type="checkbox"/> 語調を変化させている。（ポイントの前には間をおく、要点は繰り返す等）
	指示	<input type="checkbox"/> 肯定的な表現を使うように努め、児童生徒の自尊心に配慮している。 <input type="checkbox"/> 指示を出した後、全員が理解したかどうかを確認して、次の指示を出している。 <input type="checkbox"/> 全体での指示の理解が困難な児童生徒には、活動の前に個別に指示を与えている。
	評価	<input type="checkbox"/> 既習事項等の想起の手がかり（ヒントカード等）を準備し、必要に応じて使っている。 <input type="checkbox"/> 望ましい言動に肯定と称賛の言葉をかけ、何がよかったのかを全員の前で伝えている。 <input type="checkbox"/> 取りかかりに時間を要する児童生徒には、手元の手順カードで課題を確認できるようにしている。
学習形態	<input type="checkbox"/> 学習方法や内容に応じた形態（個人、ペア、グループ、全体）を取り入れている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒同士で教え合ったり、助け合ったりする場面を取り入れている。	
教材 教具	<input type="checkbox"/> ワークシート等を工夫し、話し合いに集中できるようにしている。 <input type="checkbox"/> ワークシートは、ノートに貼り付けることができる大きさにしている。 <input type="checkbox"/> 電子黒板やプロジェクタを活用し、視覚的な支援を行っている。	
板 書	<input type="checkbox"/> 「めあて」と「まとめ」を赤で囲み、各時間の学習内容を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 記入する内容によって書く場所を使い分けたり、短冊黒板を利用したりしている。 <input type="checkbox"/> 板書や提示教材を、ノートやワークシートと連動させている。 <input type="checkbox"/> ポイントやキーワードは拡大や強調している。 <input type="checkbox"/> 行間は広く、罫線、チョークの色分け等で、ポイントにメリハリをつけている。 <input type="checkbox"/> 文字の大きさや配列を意識し、最後列からも見えやすい板書や掲示にしている。 <input type="checkbox"/> よく使う指示、ポイント、矢印、枠等は、繰り返して使えるようにイラスト（カード）化している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が書く時間を確保している。	
学習環境 他	<input type="checkbox"/> 「相手を意識して発表する」「話している相手の方を見て聞く」などの学習ルールを明確にしている。 <input type="checkbox"/> 教室内に「学習の履歴」コーナーを設け、既習事項の想起や現在の学習との関連付けを図っている。 <input type="checkbox"/> 集中力を高めることのできる座席や人間関係を踏まえた座席を考慮している。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりのよさや努力の過程が認められる場の設定に努め、児童生徒の意欲の向上を図っている。	



確認ポイント⑤ 授業における個別的な支援の充実

障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮（例）

観点	困 難	支 援 や 配 慮 の 例
聞く	指示を理解することが苦手	<input type="checkbox"/> 指示代名詞は可能な限り使わない。 <input type="checkbox"/> 短く、はっきり、ゆっくり話す。
話す	筋道に沿って話すことが苦手	<input type="checkbox"/> じっくりと話を聞き、話そうとしていることを適切な言葉で言い換える。 <input type="checkbox"/> 「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」に合わせて話をさせる。
読む	音読が苦手	<input type="checkbox"/> 漢字にふり仮名をつける。 <input type="checkbox"/> 教科書等の文字を拡大する。 <input type="checkbox"/> スリットの入った厚紙を使い、読む行だけが見えるようにする。
	読解が苦手	<input type="checkbox"/> 文書に関係のある絵を準備する。 <input type="checkbox"/> キーワードを <input type="text"/> で囲んだり、段落の関係を図で示したりする。 <input type="checkbox"/> 選択肢を用意し、どれが主題かを選択させる。
書く	書くことが苦手	<input type="checkbox"/> 必要に応じてワークシートを使う。 <input type="checkbox"/> 『親』は、『立って木を見る』など、字を練習する際、覚える方法を工夫する。 <input type="checkbox"/> 漢字の練習では大まかに書けていれば正解にするなど、段階的な到達度を設ける。 <input type="checkbox"/> 場合に応じて、パソコンの利用を認める。
	作文が苦手	<input type="checkbox"/> 作文の下書きやアウトラインメモを用いる。 <input type="checkbox"/> 写真や絵など、作文を書くときの手がかりを用意する。 <input type="checkbox"/> テーマを決めた作文、自由に書く作文など柔軟に設定し、苦手意識を軽減する。
計算する	計算が苦手	<input type="checkbox"/> 一度に取り組みさせる計算問題の量を調整する。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて具体物を使う。
推論する	文章題が苦手	<input type="checkbox"/> 解き方の手順を示す。 <input type="checkbox"/> 問題文の中で要点やキーワードに印をつける。 <input type="checkbox"/> 既習事項で、本人が自信をもって答えられるような発問を用意する。
不注意	集中することが苦手	<input type="checkbox"/> 1時間の授業の中で、異なる課題を準備し、困難の状況に応じて柔軟に選択する。 <input type="checkbox"/> 1時間の授業の流れを一定にし、見通しがもてるようにする。
	忘れやすい	<input type="checkbox"/> メモをとるようにさせる。 <input type="checkbox"/> メモやプリントを入れる場所を決める。 <input type="checkbox"/> 持ち物は複数にせず、一つにまとめる。
多動性 衝動性	指示や役割を遂行することが苦手	<input type="checkbox"/> 一度に一つの指示を伝えるようにする。 <input type="checkbox"/> 指示を具体的にするとともに、必要に応じて復唱させてみる。 <input type="checkbox"/> わからないときには、援助や助言を求められるようにする。
	感情的になりやすい	<input type="checkbox"/> 気持ちを受け止め、落ち着くまで待つ。 <input type="checkbox"/> 落ち着いたら一緒に状況を振り返り、どうすべきだったか考えさせる。 <input type="checkbox"/> 気持ちが落ち着く場所を用意する。
対人 関係	グループに入ることが苦手	<input type="checkbox"/> グループでの役割分担を明確にする。 <input type="checkbox"/> サポートしてくれる児童生徒をグループに入れる。 <input type="checkbox"/> 周囲の児童生徒にも理解を求め、援助してもらえるようにする。
	会話を発展させることが苦手	<input type="checkbox"/> 話しかける前や話題をかえる時は、相手に一言確認するように指導する。 <input type="checkbox"/> 自分の興味のある話をするだけでなく、相手の意見を聞くように指導する。 <input type="checkbox"/> 好きな話題を一緒に楽しむ時間をつくる。
	急に不安定になる	<input type="checkbox"/> 急に感情的になったことについては叱責せず、保健室等で静かに休ませる。 <input type="checkbox"/> 落ち着いたと判断できたら、不安定になったきっかけと一緒に振り返る。 <input type="checkbox"/> 本人の気持ちを理解するとともに、周囲の児童生徒の気持ちについて一緒に考え、どうすべきであったのかを話し合う。
	状況に関係のない話をしてしまう	<input type="checkbox"/> 活動の流れと現在の活動が何かを文字や絵で提示し、確認させる。 <input type="checkbox"/> 伝えるときは、できるだけ具体的な言葉で話す。 <input type="checkbox"/> 相手を傷つける発言に対しては後で話を聞き、相手の気持ちを考える機会をもつ。
こだわり	予定変更への対応が苦手	<input type="checkbox"/> 時間を変更する場合は、前日までには伝え、さらに当日の朝、再度説明し確認する。 <input type="checkbox"/> 変更点は口頭だけでなく、視覚的に確認できるようにする。
	特定のことへのこだわりが強い	<input type="checkbox"/> できることを増やし、関心を広げることでこだわりを減らすように努める。 <input type="checkbox"/> してもよい時間や場所などを決め、小さな約束から守るようにさせる。 <input type="checkbox"/> こだわりがよい面に現れることもあるので、長所としてとらえるようにする。



確認ポイント⑥ 全校体制で取り組む特別支援教育

校内の相談支援の実効性の向上

特別な教育的支援を要する児童生徒は、学校全体で支援することが必要です。ここでは、学校が組織として支援していくためのポイントを示しています。学校における特別支援教育の推進役である管理職や校内コーディネーター等が、本資料を参考に、自校の現状を把握し、改善策を検討していくことで、校内の相談支援を実効性のあるものにしていきましょう。



組織支援チェックリスト（例）

項目	内 容 例
組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> □管理職のリーダーシップのもと、全教職員が積極的に校内支援体制の一層の充実に取り組んでいる。 □教員同士が感じている「困難」を互いに相談し合える場がある。 □組織的対応の重要性を全教職員が実感し、協力して支援するという雰囲気がある。 □校内委員会が学期に一回は開催されている。 □校内のリソースを活用するシステムがあり、そのシステムを全教職員が共通理解している。 □校内委員会と事例検討会及び学年会などとの間で双方向的な連絡が取れている。 □特別支援教育に関する校内研修会を効果的に実施している。 □外部の専門機関等と連携する際の手続きについて、全教職員が共通理解している。
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> □学校全体として、特別な教育的支援を要する児童生徒の実態把握ができています。 □児童生徒の課題に関する情報が一か所ですまることがなく、校内で共有できている。 □児童生徒の課題について、報告に止まることがなく、関係者で協議を行う機会がある。 □専門性のある教員や支援のための空間、支援のために使える時間等が把握されている。
計画的な支援	<ul style="list-style-type: none"> □事例検討会を定期的開催している。 □必要に応じて事例検討会を組織する準備をしている。 □事例検討会を開催する手続きが決まっている。 □事例検討会の前に記録や支援シート等を準備している。 □事例検討会や学年会などにおける話し合いに基づいて、教職員の役割が分担されている。 □支援を行う教職員同士が、事例検討会や学年会以外の場で、支援内容について連絡を取り合う機会がある。 □個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、引き継いでいる。
安全・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> □全校体制で危機管理に取り組めるよう、校内委員会に働きかけたり講師を招いて研修を行ったりしている。 □興奮したり情緒的に不安定になったりした児童生徒が落ち着ける部屋や場所を決めている。 □児童生徒に困難な状況や問題が生じたときの対応を学校として明確にし、必要に応じて訓練を行っている。 □児童生徒について、予測される課題や対応などを個別の教育支援計画や指導計画等に記載している。
保護者の相談体制	<ul style="list-style-type: none"> □保護者の不安に学校として対応できている。 □学校における特別支援教育の取組を、学校通信等を通して、全ての保護者に伝えている。 □校内コーディネーターや相談窓口を担当する教職員の名前を、全ての保護者に伝えている。 □相談の仕組みが全ての保護者に伝わっており、保護者が安心して相談できる部屋や場所がある。 □事例検討会に保護者が参画する機会を確保している。 □事例検討会や保護者懇談会以外の場で、支援内容について保護者と話し合う場がある。 □保護者の相談に対して検討する機会を設定するとともに、受付や回答の担当者を学校として決めている。

特別支援教育の推進には、発達障害のある児童生徒の二次的な障害の予防的対応の重要性を全教職員が認識するとともに、問題が生じたときの迅速・適切な対応を共通理解しておくことも重要です。

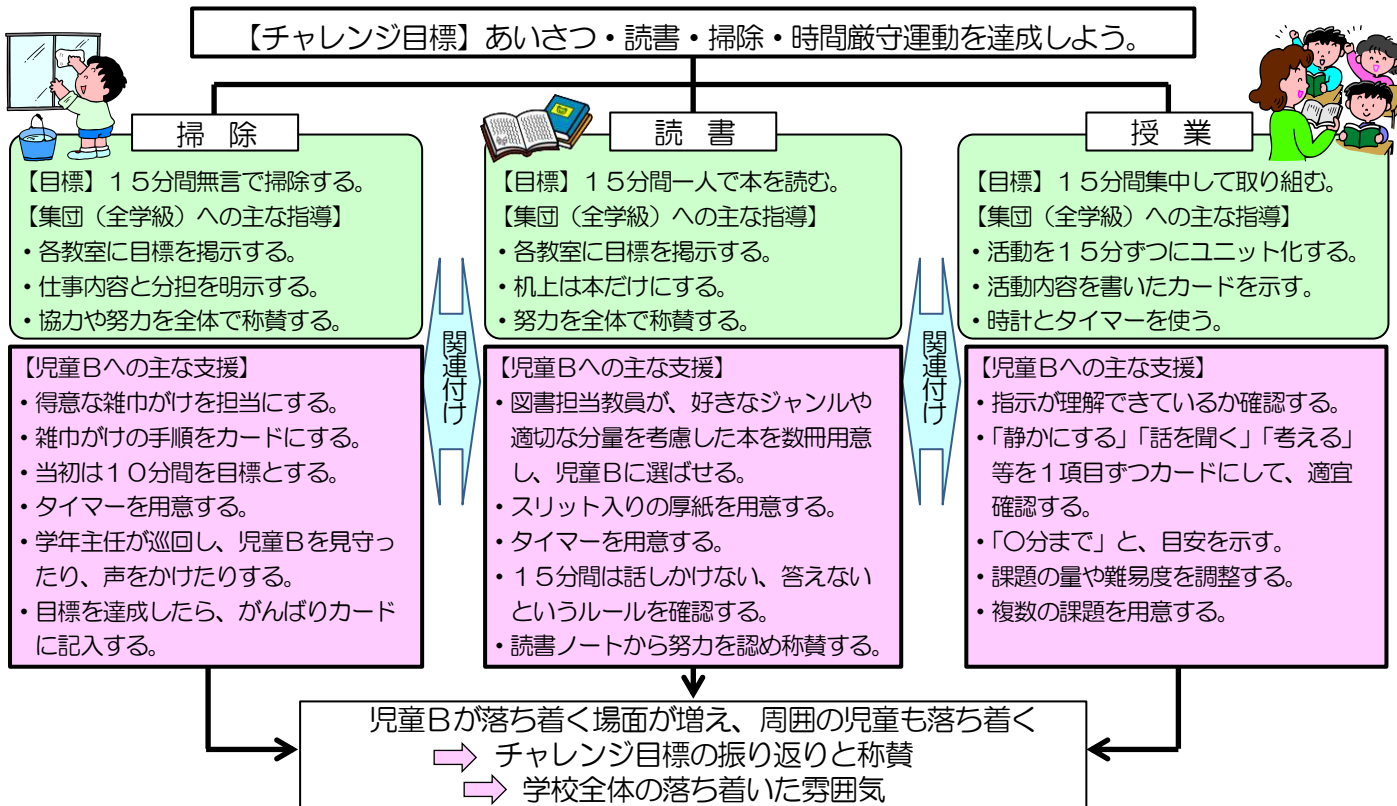
特別な教育的支援を要する児童生徒をはじめ、全ての児童生徒の安全確保に向けた取組を進めるに当たっては、県教委の「問題行動等対応マニュアル」や「よりよい生徒指導に向けて」、文部科学省の「生徒指導提要」が参考になります。

【発達障害と問題行動】文部科学省「生徒指導提要」より抜粋

発達障害の特性が、直接の要因として問題行動につながることはありません。障害の特性により生じる学力や対人関係の問題に対して、失敗やつまづきの経験だけが積み重なることで、ストレスや不安感の高まり、自信や意欲の喪失、自己評価、自尊感情の低下を招き、さらなる適応困難、不登校や引きこもり、反社会的行動等、二次的な問題としての問題行動が生じることがあります。

事例① チャレンジ目標を生かした全校体制による支援

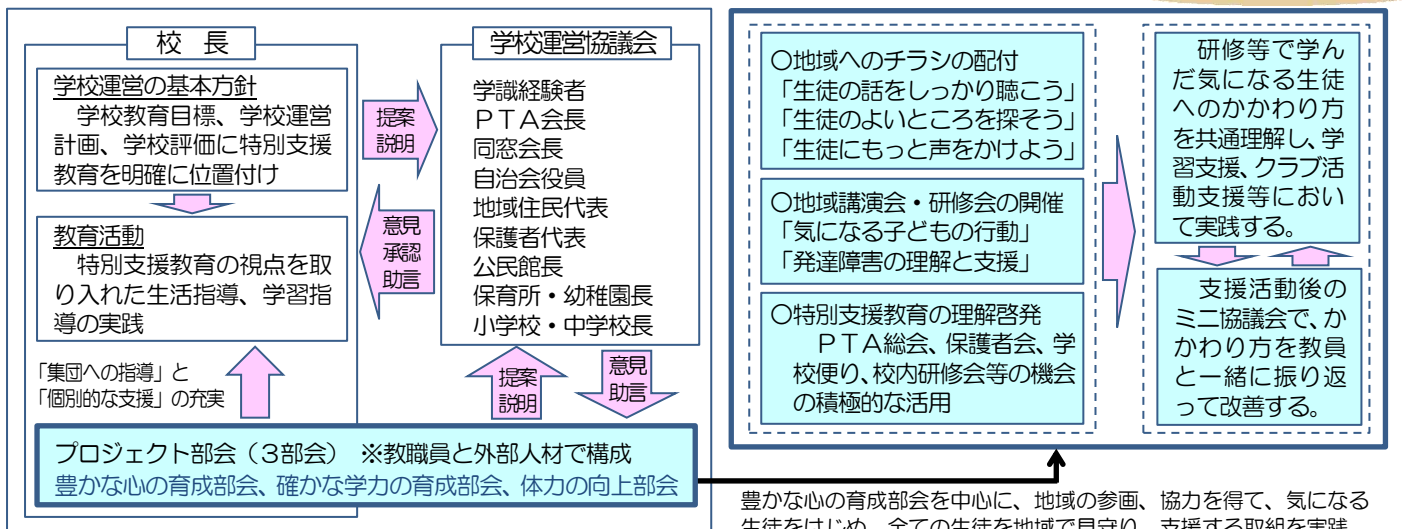
A小学校では、チャレンジ目標に基づき、掃除、朝の読書、授業のそれぞれの場面において教員間が連携し、一貫した支援を行った結果、発達障害のある児童Bも含め、全ての児童が、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っています。



事例② コミュニティ・スクールの充実による保護者や地域が参画した特別支援教育の推進

C中学校では、学校運営協議会において、学校の特別支援教育の取組に対する意見・助言を得るとともに、学校運営協議会の下部組織であるプロジェクト部会において、特別な教育的支援を要する生徒をはじめ、全ての生徒を地域全体で理解し、認め、支援していくための方策を検討、実践しています。

【C中学校コミュニティ・スクール】



事例③ 学級担任や障害のある児童生徒を組織として支える校内体制の構築

D中学校では、生徒への指導について、担任が日常的に相談できる仕組みをつくり、必要に応じて活用できるようにするとともに、生徒の必要としている教育的支援を4つの段階に分け、段階に応じて教職員が協働することができるようにするなど、担任や生徒を組織として支える校内体制の構築に努めています。

<校内の教職員の連携・協力のための仕組み>

- 学年会・・・・・・・・・・・・・・・・ 生徒の学習・生活面での問題を早期に把握し、迅速に対応する。
- 校内委員会・・・・・・・・・・・・ 生徒の実態把握や今後の対応について検討する。
- 個別の指導計画の作成検討・・・・ 指導上の配慮事項や留意点等を指導者間で共通理解する。
- 個別の教育支援計画の作成検討・・・・ 保護者や関係機関との連携について検討する。
- 校内教育支援委員会（校内就学指導委員会）・・ 支援の在り方やより適切な教育の場を検討し、共通理解する。

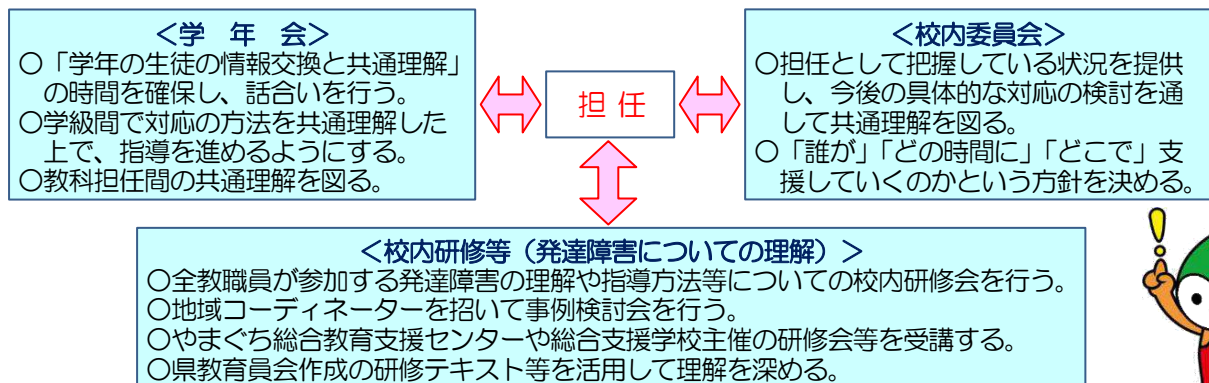
<教育的支援の4段階>

- I：学級担任で対応が可能な支援の段階
- II：学級担任だけでなく同学年や近接学年での支援の段階
- III：TT、加配教員や支援員等の協力による支援など、学校全体による支援の段階
- IV：学校だけの支援は困難であり、関係機関による協力を交えた支援の段階



- ・担任は、現在の指導方針や支援方法に迷いを抱いたり、指導に困難を感じたりすることもあります。
- ・学年会や校内委員会を、担任の不安を取り除く場としても活用しましょう。
- ・そのためには、悩みを率直に話せる校内の雰囲気重要です。
- ・担任が直接、指導上の悩み等を特別支援教育センター、ふれあい教育センター等に相談することもできます。
- ・併せて、身近な教職員にも相談し、校内で話し合い、解決に向けて協働していくことが大切です。
- ・必要に応じて、外部の専門家に協力を依頼することも検討しましょう。

【学級担任を支えるD中学校の校内体制】



○県教育委員会では、発達障害等の理解や支援に関する研修テキスト等を作成しています。

<<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a503001/induction/text.html>>

○総合支援学校では、小・中学校等の教員の実践的指導力の向上を支援するため、地域の学校を対象とした研修会や実地研修等を実施しています。詳細は各総合支援学校にお尋ねください。

【県教育委員会作成テキスト等（特別支援教育関係）】

資料の名称	目的・内容等
支援をつなぐ（理論編）	発達障害の理解、発達障害の早期発見と校内体制整備のためのテキスト
支援をつなぐ（実践編）	発達障害についての教員の指導力向上と校内体制充実のためのテキスト
支援をつなぐ（研修編）	特別支援教育の校内研修の充実と校内体制の機能強化のためのテキスト
「個別の教育支援計画」Q&A及び記入例	「個別の教育支援計画」作成の手引
特別支援教育における「個別の指導計画」作成のために	「個別の指導計画」作成の手引
特別支援教育における「個別の指導計画」作成のために—記入例—	各学校において実際に「個別の指導計画」を作成する際の参考資料
高等学校等における特別支援教育	高等学校段階を考慮した発達障害等の理解と支援を学ぶためのテキスト
中学生・高校生のための相談支援ガイド	中学生・高校生に学校生活や進路・就職等の相談機関を紹介するリーフレット
特別支援学校 新着任用者研修テキスト	特別支援教育の基礎的知識の習得と実践的指導力向上のためのテキスト